写

金沢市における
家庭教育の推進に関する提言

令和４年１月

金沢市家庭教育推進懇話会

目　　次

はじめに …… 1

Ⅰ　家庭教育に関する背景及び市の計画…… 2～5
（１）教育基本法
（２）第３期教育振興基本計画
（３）金沢市教育行政大綱
（４）子どもの幸せと健やかな成長を図るための社会の役割に関する条例
（５）家庭教育に関する指針「家庭で子どもを育むための８つのすすめ」と
　　「金沢市家庭教育推進プログラム」
（６）かなざわ子育て夢プラン2020

Ⅱ　家庭教育をめぐる現状…… 6～8
（１）家庭教育に関する保護者意識調査
（２）保護者意識調査結果から見えた家庭教育の状況

Ⅲ　家庭教育の推進における課題…… 9～11

Ⅳ　家庭教育の推進に向けた方策…… 12～14

金沢市家庭教育推進懇話会委員名簿・経緯…… 15

参考資料
　家庭教育に関する保護者意識調査結果 …… 17～37

はじめに

家庭は子供たちの健やかな成長にとっての基盤であり、家庭教育はすべての教育の出発点となるものである。

近年、核家族化、共働き家庭やひとり親家庭の増加、地域におけるつながりの希薄化等の社会環境の急激な変化を背景に、価値観やライフスタイルの多様化が一層進み、かつて大人自身が家族とのふれあいや地域で学んできた「大切なこと」を子供に伝えることが困難な状況になったり、保護者が孤立感を抱える状況が生まれている。

こうしたことから本市では、平成 28 年度に家庭教育に関する指針「子どもを育むための８つのすすめ」を策定するとともに、指針の具現化を図るための施策を体系化した「家庭教育推進プログラム」に基づき、平成 29 年度から令和３年度の５年間にわたり事業を展開してきた。

今年度、現プログラムが期間満了を迎えることから、家庭教育推進懇話会では、「家庭教育に関する保護者意識調査」の結果を踏まえ、これまでの事業成果の検証と保護者ニーズの把握を行うとともに、デジタル化の進展など家庭や地域を取り巻く環境の変化に対応した、これからの家庭教育の推進施策について検討を行ってきた。

これまで３回にわたる真摯な議論を重ね、社会全体で子育て中の家庭を教育の側面から支える新たな家庭教育推進のための方策を、当懇話会でとりまとめたのでここに提言する。

本提言が、次期「家庭教育推進プログラム」に生かされ、子供たちの健やかな成長につながることを切に願うものである。

令和４年１月

金沢市家庭教育推進懇話会

会　長　桑村　佐和子

Ⅰ　家庭教育に関する背景及び市の計画

（１）教育基本法

国は、全ての教育の出発点である家庭教育の重要性に鑑み、平成 18 年に教育基本法を改正し、第 10 条に「家庭教育」を、第 13 条に「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」の規定を新設した。

第 10 条では、保護者が子の教育について第一義的な責任を有すること、国や地方公共団体が家庭教育支援に努めるべきことが規定され、第 13 条では、学校、家庭、地域住民など社会を構成するすべての者が、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚し、相互に連携協力に努めるべきことが規定されている。

教育基本法

（家庭教育）

第10条　父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

２　国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力）

第13条　学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。

（２）第３期教育振興基本計画

平成 30 年６月に閣議決定された第３期教育振興基本計画では、妊娠期から学齢期以降までの切れ目のない支援の実現に向けて、地域における子育て支援と家庭教育支援の連携体制を構築し、教育委員会と他の部局間、関係機関・関係者の間で支援が必要な子供や家庭に関する情報の共有化や協働の促進を図ることとしている。

（３）金沢市教育行政大綱

「金沢市教育行政大綱」（平成 27 年 10 月策定）は、市の教育振興の両輪となる「金沢市学校教育振興基本計画」と「金沢市生涯学習振興基本計画」を基本とし、両計画の

基本理念を踏まえた、基本的な教育行政の施策の方針を定めたものであり、５つの基本方針の１つとして、「家庭・地域の教育力の向上」を掲げている。

学校教育部門の計画である金沢市学校教育振興基本計画では、「めざすべき金沢の子ども像」の実現に向け、８つの基本的方向性及び取り組むべき施策の考え方を定め、学校と家庭、地域が互いに連携しながら、地域づくりの担い手となる次代のひとづくりに取り組むことを掲げている。

生涯学習部門の計画である金沢市生涯学習振興基本計画では、「めざす学びの姿」を掲げ、その実現に向けて定めた５つの基本的方向性の１つを「青少年の育成のために家庭・地域教育力の向上に取り組みます」とし、取り組みを進める基本施策の考え方に、「『めざすべき金沢の子ども像』の実現に向けた家庭教育の推進」及び「学校、家庭、地域の連携促進による協力体制の推進」を掲げている。

（４）子どもの幸せと健やかな成長を図るための社会の役割に関する条例

平成 13 年に制定した「子どもの幸せと健やかな成長を図るための社会の役割に関する条例」（通称：金沢子ども条例）は、地域コミュニティを形成する家庭、地域、企業、学校、行政等のすべてが子供の育成に責任を有することを認識し、その役割に応じて主体的に子供を育成することを目的としている。

家庭の責務としては、保護者は、子供の行動及び人格形成に最も大きな責任を負うことを自覚し、愛情を持って子供に接するとともに、基本的な生活習慣や社会的な決まりを守る意識を子供が身に付けることができるようにしながら、子供の健やかで豊かな人間性を育むよう努めること。また、成長段階に応じて子供との適切な距離を保ちながら、家庭内における意思疎通を図るよう努めることとしている。

この条例に基づき、大人が共通の理念と目標を持って、具体的にどのように行動していくべきかをまとめた「金沢子どもを育む行動計画」を策定し、教育や子育てに関係する各種団体と連携を図りながら、家庭教育の充実のほか、子供の育成に関する具体的な取り組みを進めている。

（５）家庭教育に関する指針「家庭で子どもを育むための８つのすすめ」と「金沢市家庭教育推進プログラム」

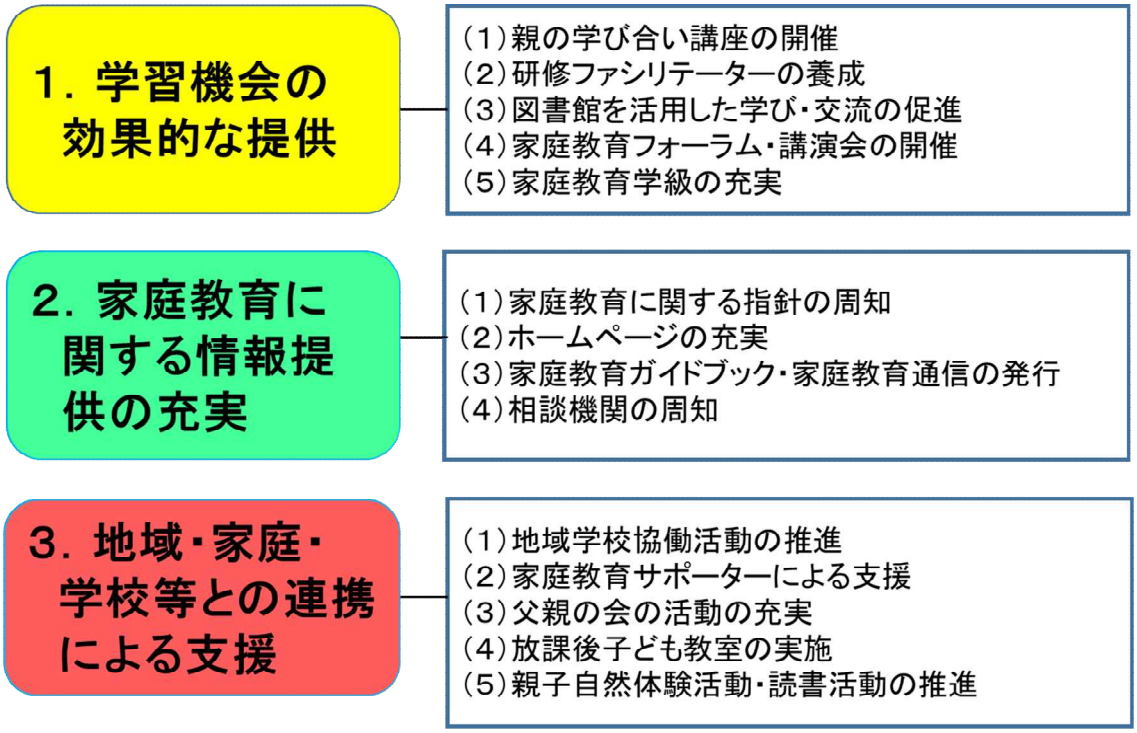
「家庭で子どもを育むための８つのすすめ」（平成 28 年制定）

金沢市学校教育振興基本計画に掲げる「めざすべき金沢の子ども像」をもとに、市内の中学生によるプロジェクト活動により、子供たちの考え方や行動の基本的な約束事となる「金沢子どもかがやき宣言」を制作した。

これを実践する子供を育むため、家庭で意識してほしい「大切なこと」を家庭教育に関する指針として示し、家庭教育の一助としてもらうことを目的に策定した。

「金沢市家庭教育推進プログラム」（平成 29 年度～令和 3 年度）

「金沢市生涯学習振興基本計画」及び「子どもの幸せと健やかな成長を図るための社会の役割に関する条例（金沢子ども条例）」に基づき、家庭教育に関する指針を保護者へ浸透させ意識付けるとともに、その実践を支援するため、家庭教育の推進を図る具体的な施策を体系化した「金沢市家庭教育推進プログラム」を策定した。



（６）かなざわ子育て夢プラン 2020

かなざわ子育て夢プラン 2020（令和２年３月策定）は「みんなでつながり　支え合う　子育ての喜びを分かち合うまち金沢」を基本理念に掲げ、子育ての不安・負担解消のための施策の充実を図るとともに、市民の子育てへの関心を高め、子供と子育て家庭を温かく見守り支えるまちづくりを一層推進することを目的としている。

家庭教育については、「親子のふれあいを通した家庭教育の推進」を基本施策として掲げており、親子の絆を深める環境づくりと親として成長するための支援に取り組むこととしている。

Ⅱ　家庭教育をめぐる現状

（１）家庭教育に関する保護者意識調査

子供との関わりや、保護者自身の家庭教育に対する意識等を把握するとともに、市の家庭教育に関する事業の認知度やニーズを把握するため、家庭教育に関する保護者意識調査を実施した。

【調査概要】

・調査期間　　令和３年７月 20 日～８月 20 日
・調査方法　　市内全域から無作為抽出、郵送により調査票を配布
　　郵送またはインターネットで回答（無記名方式）
・調査対象　　市内に住む幼児教育施設の年中児童、小学校４年生の児童及び
　　中学校２年生の生徒の保護者
・調査件数　　3,000 件（各 1,000 件）　無作為抽出
・回収件数　　1,609 件（回答率 53.6%）
・回答者の属性　父親 17.7%　母親 82.0%　その他 0.3%

（２）保護者意識調査結果から見えた家庭教育の状況

１．子供の状況について

・スマートフォン、タブレット、パソコン等のデジタル機器の所持状況は、子供専用で利用する割合は、年中(6.0%)、小学生（25.0%）、中学生（57.5%）と年齢が上がるにつれ高くなっている。専用・親や兄弟(姉妹)との共用含めて多くの家庭で、子供が所持しており、機器の使用は低年齢化している。（問１）
・平日１日あたりの使用時間は年齢が上がるにつれて増え、前回調査（平成 28 年）と比較すると全体的に使用時間が増えている。（問２）
・家庭での学習時間は前回調査に比べて、相対的に減っている。（問３）
・デジタル機器の利用についての保護者の心配と不安は、「視力の低下」(83.1%)が最も高く、「生活習慣の乱れ」(57.6%)、「インターネット等への依存」(55.8%)の順となった。年齢が上がるにつれ「学校の成績の低下」が高

くなっている。（問４，５）

２．子供との関わりについて

・家族の就業状況は、父親が 90%以上、母親が 80%以上であり、共働きの家庭が８割を超えている。（問 24）
・子供と一緒に過ごす時間は年齢が上がるにつれて減少している。前回調査と比較して、過ごす時間そのものが減少している。（問６）
・子供とコミュニケーションがとれない理由として、「仕事等が忙しくて時間がないから」という回答が、年中（77.5%）、小学生(74.7%)で多く、共働き家庭が８割を超える状況を踏まえ、親に余裕がないことがわかる。（問８）
・コロナ禍において家庭で過ごす時間が増えたことによる変化として、良かったことは「子供とのコミュニケーションが深まった」という回答が、年中(34.7%)、小学生（29.3%）で多く、時間が増えたことがコミュニケーションを深めることにつながった。（問９）
・その一方で、保護者の「ストレスが増えた」という回答が、年中(44.1%)で高く、小学生、中学生では「ストレスがなかった」という回答が最も多かったことから、低年齢の子供のいる家庭において、ストレスが増えたと感じる傾向があった。（問 10）
・子供との接し方やしつけで困ったときの相談相手は、すべての年代で、「家族、親族」が最も高く、次いで「知人、友人」の順となった。年中児童においては、「幼児教育施設や学校の先生」と回答する割合が、他の年代と比較して高くなっている。相談相手がいないと回答した割合は、どの年代でも低いことから、多くの保護者は誰かに相談したいことがあり、周囲の身近な人に相談していることがわかった。（問 11）
・子供の教育をする上で、日頃から特に心がけていることは、すべての年代で、「社会のルールをきちんと守る」という回答が最も高く、どの年代においても 70%を超えており、前回調査と比べて大きく増加している。また、「思いやりの心、命の大切さ」、「感謝の気持ちを伝える」、「規則正しい生活リズムと食習慣」の回答は、すべての年代で半数を超えている。こうした状況から、きちんと子供を育てなければいけないと心がけて頑張っている保護者の姿が見えてくる。（問 12）

・家庭において教えるのが難しいと感じていることは、「協調性や人とのつきあい方」が最も高く、次いで、「学ぶことの大切さ」や「インターネットの適正な使い方」をあげている。（問 13）

３．地域、学校等とのつながりについて

・保護者会等の行事への参加については、「参加していた」という回答が、小学生で 70.8％と最も高く、次いで中学生で 63.5％、年中で 53.9％であった。前回調査と比較して参加割合が減少しており、保護者会等を通しての保護者の交流機会が減少していることがわかる。（問 14）
・参加できない理由として、「仕事が忙しくて時間がないため」という回答がすべての年代で最も多いことから、家庭では保護者に時間の余裕がないことがわかる。（問 15）
・保護者会等の行事への参加を促すための取り組みとしては、「親子で参加できるイベントの充実」、「保護者が興味を持つテーマの設定」への希望が多い。また、前回調査と比較して、「親子で参加できるイベントの充実」や「ＳＮＳ等を活用した案内や周知の充実」を希望する割合が増加している。（問 16）

４．家庭教育推進施策について

・家庭教育に関する指針「８つのすすめ」を知っていると回答した割合が約 20％と低く、指針が家庭に浸透していないことがわかる。（問 17）
・家庭教育を推進するために必要な取り組みは、「発達段階に応じた家庭教育の取り組みをわかりやすく伝えること」や、「困ったときに相談できる人や場をつくること」のニーズが高かった。（問 18）
・情報の入手手段として、「幼児教育施設・学校等からのチラシやパンフレット（紙のもの）」 が依然として高い。また、デジタル機器の普及に伴い、「幼児教育施設・学校等からの保護者あて電子メール」や「ＳＮＳからの情報発信」を望む回答が多かった。（問 19）

Ⅲ　家庭教育の推進における課題

家庭教育推進懇話会での意見や、家庭教育に関する保護者意識調査結果等から、以下の課題を整理した。

１．家庭教育に関する指針の浸透

これまで乳幼児期から小中学生の子供をもつ保護者を対象に、家庭において意識してほしい“大切なこと”を指針として示した「８つのすすめ」の啓発チラシを作成し、１歳半健康診査や入学説明会等、保護者が集まる様々な機会を通して、その周知を図ってきたが、保護者意識調査では約２割しか知らないという結果であった。

これを受け、今後は「８つのすすめ」を、日常生活のどのような場面で意識すればよいか等を、保護者の気づきを促し、理解しやすいよう、漫画やイラスト等でわかりやすく伝えるとともに、周知の方法も手軽に情報を得られるよう、ＳＮＳ等の普段利用している手段を活用する等、保護者に届く方法を工夫していくことが必要である。

２．乳幼児期からの切れ目のない家庭教育支援

家庭教育は生まれた時から始まり、家庭は生涯にわたる学びの土台を育む重要な役割がある。そのため、保護者には子供の発達段階に応じて、乳幼児期からの必要な情報提供を行い、子育てに対する不安感や孤立感を解消する取り組みが必要である。

特に、社会変化の大きな時期は、それ以前の認識が通用しないことも考えられ、各発達段階での支援や情報提供は、子供を中心とした考えに立って、母子保健、子育て支援機関との垣根を越えた検討が求められる。

３．多忙な保護者への効果的なアプローチ

共働き家庭の割合が８割以上であり、ひとり親家庭もあることから、保護者は平日帰宅すれば、家事や子供の世話等、するべきことが多く余裕がない。また、最近では習い事や塾等に通う子供も多く、その送り迎え等休日も時間がとれない状況がある。こうしたことから、忙しい保護者に向けて、いかに効果的なアプローチをするかが重要である。

保護者意識調査では、デジタルの普及に伴い、忙しい日常の隙間時間に、有益な情報

に気軽にアクセスできる情報の入手手段として、ＳＮＳ等の活用を望む意見が多かったことを踏まえ、保護者が情報を受け取る選択肢を今一度見直す必要があると考える。

また、共働きの保護者が多いことを受け、保護者が所属する企業にも、家庭教育の支援の担い手として参画することが期待される。企業が、働き方改革の一環として、子育て中の従業員のために、子育て経験者同士の交流や親子がふれ合う体験の機会を、職場で提供できるよう、行政からの働きかけが望まれる。

４．家庭でのデジタル機器の適正な使い方

デジタル機器の使用の低年齢化や使用時間の増加による身体的な影響や、生活習慣の乱れ、インターネット等への依存についての保護者の不安を解消するには、まずは保護者自身が適正なデジタル機器の使用について知ることが必要である。

未就学の子供の保護者を含め、デジタルの良さとその危険性を含めた情報リテラシーを学び、子供のデジタル機器の利用を適正に管理しながら、うまく活用する能力を養うことが大切である。その上で、親子が話し合いながら、それぞれの家庭におけるルールづくりを進めていく取り組みが望まれる。

５．多様な価値観や事情を持つ家庭への対応

核家族化や共働き家庭、ひとり親家庭の増加等により、子育てにおいて社会から孤立している家庭や、家庭教育への関心が低い保護者等、真に支援や家庭教育に関する情報を必要とする家庭に届いていないという実情が見受けられる。一方で、幼児教育施設・学校の教職員や福祉施設の職員等の言動に支えられる子供たちもいる。

行政のみならず、学校、地域、福祉施設等での、子供の健やかな成長を支える活動は今後もなお一層期待されるが、さらに実施主体それぞれが子供の人間性を育む家庭教育の重要性について共通の認識を持ち、保護者、子供たちの両方に寄り添った対応が必要である。

６．社会全体で家庭教育をサポートする体制整備

家庭教育は保護者が第一義的に行うものであるものの、保護者だけではなく、社会全体で子供の成長を支えていく取り組みが必要である。

このことを再認識し、行政において部局を超えた連携を進めるとともに、幼児教育施設と学校との接続、地域における児童館や公民館等との連携により、子供と関わる大人が、一定の共通認識を持ちながら家庭教育の大切さを保護者に伝えていくとともに、保護者が不安を感じたり、困ったときに寄り添うことのできる存在であり続けることが大切である。

Ⅳ　家庭教育の推進に向けた方策

こうした課題の解決にむけて、次期「家庭教育推進プログラム」においては、家庭を取り巻く環境の変化に応じて、３つの視点に立ち、柔軟かつ速やかに、家庭教育施策の実施又は検討を進めていくことが望まれる。

１．学ぶ　～学習機会の効果的な提供～

① 発達段階に応じたわかりやすい家庭教育ハンドブックの制作

家庭教育に関する指針「８つのすすめ」は、幼児期から学齢期までの子供の保護者に共通する心がけたい大切なことである。この「８つのすすめ」をもとに、子供の発達段階に応じ、日常生活のどのような場面で、どのようなことを意識し、実践すればよいかを具体的に考えられるように、わかりやすく示したハンドブック等の啓発ツールを整備することが必要である。

啓発ツールであるハンドブックは、保護者だけでなく、子供に関わる大人（保育士、教職員等）の研修でも活用し、関係者が家庭教育について共通認識を持つことが大切である。また、子供たち自身も将来の家庭教育、あるいは家庭教育の支援の担い手であるため、大人と子供の話し合いにも用いられるようにすることも期待したい。

②保護者の実情に即した親の学ぶ機会の提供

保護者が子育ての悩みや不安を共有したり、親同士で学びあうコミュニティである家庭教育学級が、保護者が負担を感じることなく気軽に参加でき、保護者にとって有意義な学びの場となるよう制度の充実を図る。

③企業における親同士の交流を促進

従業員の子育てを支援するための職場環境の整備や、地域貢献活動として職場体験等の事業を実施する企業が増えていることから、企業にアプローチをして、働き方改革の一環として、職場にいる時間帯に、家庭教育に関する講座の開催や情報提供等の取り組みについて協力が得られるよう、働きかけることが必要だと考える。

２．広がる　～家庭教育に関する情報提供の充実～

① 家庭教育情報の効果的な発信

共働き家庭やひとり親家庭等、子育てや仕事で家庭教育に関する新たな学びの機会が確保できない保護者に向けて、気軽に情報を取得できるようにＳＮＳや動画等のデジタルを活用した情報発信を行う。

併せて、保護者にとって有益な子育て支援や親子の体験・イベント等の情報を一元化した利便性の高いホームページを構築し、ＳＮＳ等と連動させて、ホームページに利活用してもらえるしくみを整備する。

② 定期的に提供する家庭教育情報の充実

日々悩みながら子供と向き合っている保護者に対して、子供の発達段階における特徴や子供との接し方等子育てのヒントやアドバイスを含めた家庭教育情報を、保護者の心をつかむ見出しとわかりやすい文章で定期的に届けることが望ましい。

③ 各家庭でのデジタル機器の使い方のルールづくりの推進

子供のデジタル機器の利用時間が多くなり、身体への影響や生活習慣の乱れ等を不安視する保護者に対し、デジタル機器の利用における留意点と活用のメリットの両面を正しく理解し、子供に教えることができるよう支援することが必要である。

あわせて、市やＰＴＡ・育友会が中心となり、子供にとって適切なデジタル機器の使い方を、親子で考えることの必要性についての理解と周知を図り、家庭で親子が話し合いをする際に参考となるプロセスや素材を提示する等の取り組みが求められる。

３．つながる　～地域・家庭・学校等との連携による支援～

① 家庭が社会とつながる場の創出

地域コミュニティ施設である公民館や児童館等が、地域に潜在している保育士や教員の経験者、子育て支援の市民団体等の多様な主体と連携し、親子がふれあい、他の家庭と交流する事業を実施し、子育て家庭が孤立することがないよう、地域の中で家庭がつながり、子供を見守り、育む場が創出される活動が広がっていくことが望ましい。

② 様々な担い手の家庭教育への参画推進

家庭教育の第一義的な責任は保護者が負うものであるが、保護者の力だけでは補いきれない部分は、幼児教育施設・学校等の教育機関や、公民館・児童館・児童クラブ等の地域及び行政が参画し、社会全体で子育て中の家庭の教育を支えていくことが必要である。

まずは取り組みの一歩として、教育委員会においては、こども未来局や福祉健康局等の関係部局との連携を深め、情報共有しつつ、切れ目のない支援を目指した事業を進めていくことが大切である。

１．金沢市家庭教育推進懇話会委員名簿

氏　名	所属団体・役職名
相羽　大輔	金沢市PTA協議会 会長
桑村　佐和子	金沢美術工芸大学 教授
水島　栄美子	NPO法人子育て支援はぐはぐそのままでいいよ 理事長
三谷　靖子	金城大学社会福祉学部子ども福祉学科 准教授
源　　恭子	石川県私立幼稚園協会金沢支部 支部長
宮崎　恭子	金沢市児童館児童厚生員会 会長
村上　賢正	金沢市立高岡中学校 校長
山岸　朋子	金沢市立浅野川小学校 校長
渡辺　　恵	金沢市PTA協議会 副会長

（敬称略、五十音順）

２．経緯

○令和３年６月４日

第１回家庭教育推進懇話会

（内容）・金沢市家庭教育推進プログラムの成果と課題について

・家庭教育に関する保護者意識調査の項目の検討

○令和３年７月 20 日～８月 20 日

家庭教育に関する保護者意識調査の実施

○令和３年 10 月 21 日

第２回家庭教育推進懇話会

（内容）・家庭教育に関する保護者意識調査の結果報告

・金沢市家庭教育推進懇話会提言骨子（案）について

○令和４年１月 14 日

第３回家庭教育推進懇話会

（内容）　金沢市家庭教育推進懇話会提言書（案）について

参考資料

家庭教育に関する保護者意識調査結果

１　調査の目的

本市では、平成 27 年度に策定した金沢市生涯学習進行基本計画において、「家庭における教育力の向上」を基本的方向性の１つに掲げ、本市がめざすべき家庭教育のあり方や取り組むべき施策の検討を進め、平成 29 年に家庭教育に関する指針「家庭で子どもを育むための８つのすすめ」を策定しました。合わせて、家庭教育に関する指針に基づき、家庭教育の推進を図る具体的施策を体系化した「金沢市家庭教育推進プログラム」を策定しました。現在のプログラムが令和３年度末で期間が満了することから、次期家庭教育推進プログラムの参考とするため本調査を実施しました。家庭教育の充実をめざした新たな施策につなげるため、保護者の子供との関わりや、保護者自身の家庭教育に対する意識等を把握するとともに、本市がこれまで取り組んできた家庭教育に関する事業の認知度や、保護者ニーズについて把握することを目的としています。

２　調査の方法等

①対象地域……金沢市全域
②対象者……「保育所・幼稚園等（注１）の年中児童」「小学校４年生の児童」
「中学校２年生の生徒」の保護者（注１：保育園・認定こども園も含む）
③対象者の抽出方法…令和３年 7 月 7 日現在の住民基本台帳より、
該当者（児童・生徒）を無作為に抽出。但し、男女数は同数とする。
④調査方法……調査票を郵送し、郵送又はインターネットにより無記名回答。
⑤調査基準日……令和３年 7 月 7 日
⑥調査期間……令和 3 年 7 月 20 日から 8 月 20 日

配布・回収結果

区分	年中児童	小学校 ４年生	中学校 ２年生	合計
配布数（件）	1,000	1,000	1,000	3,000
回収数（件）	562	515	532	1,609
回収率（%）	56.2	51.5	53.2	53.6

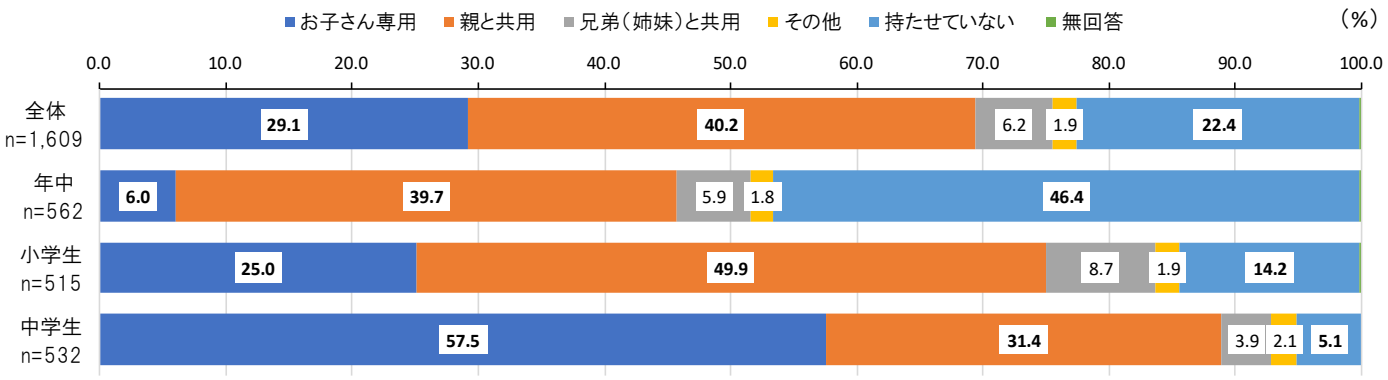
３　集計・分析にあたっての注意点

①回答の比率は、その設問の回答数を基数（N）として算出しています。このため、複数回答の設問については、すべての回答の比率を合計すると 100%を超えます。
②回答数（%）は、小数点第２位を四捨五入して算出しています。このため、すべての回答の比率を合計すると 100%にならない場合があります。
③グラフ、数表上の選択肢の表記は、場合により語句を簡略化している場合があります。

1　お子さんの状況について

問１ デジタル機器の所持状況（単一回答）

子供がスマートフォン、タブレット、ＰＣなどのデジタル機器（以下「デジタル機器」という）を子供専用で利用する割合は年中（6.0%）、小学生（25.0%）、中学生（57.5%）と年齢が上がるにつれ高くなっている。
一方、共用含めて持たせていないという回答は、年中（46.4%）、小学生（14.2%）、中学生（5.1%）となっている。
ほとんどの子供が所持している状況である。

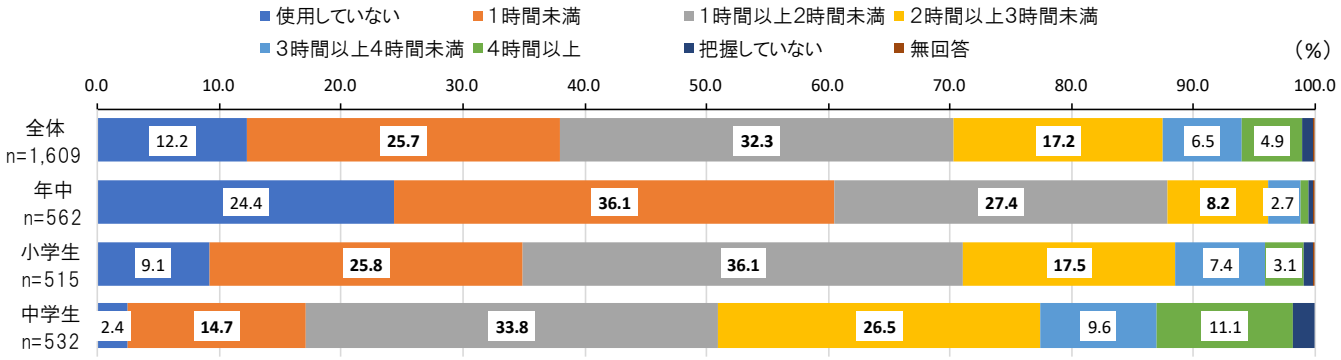


■その他回答

祖母、学校と共用、家族全員など

問２ デジタル機器の使用時間 ※学習時間は除く（単一回答）

平日1日あたりの子供のデジタル機器の使用時間は年齢が上がるにつれ高くなっている。
前回調査と比較して、中学生で若干増加傾向にある。本来、学習にあてられるはずの時間の確保に努める必要がある。



○H２８年結果との比較

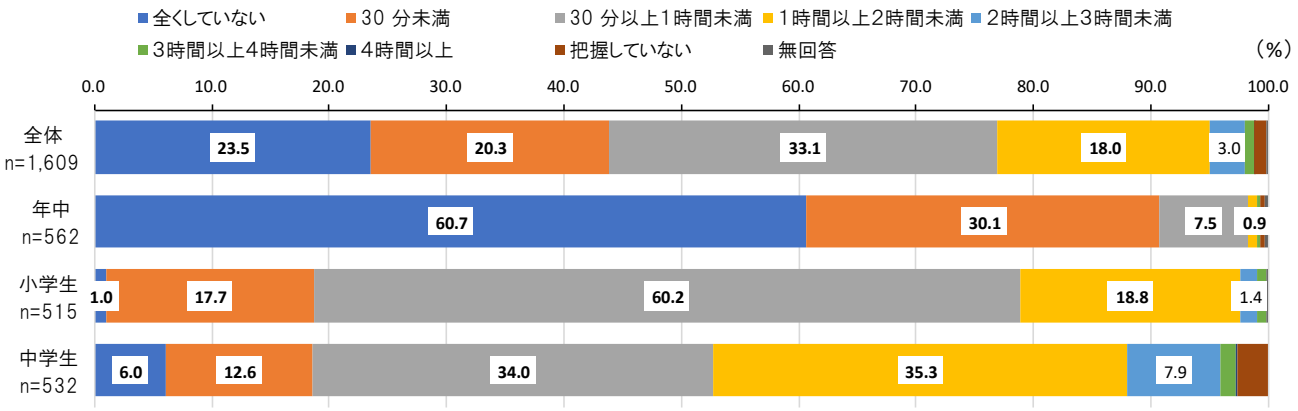
※ただし前回の質問は「問８ お子さんは、平日１日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ、ＤＶＤ等を見たり、テレビゲームをしたりしていますか。（１つだけ選択）」（年中は回答不要）

	H28			R3		
区分	全体	小学生	中学生	全体	小学生	中学生
使用していない	1.3	2.1	0.5	5.7	9.1	2.4
30分未満	5.1	5.8	4.3	20.2	25.8	14.7
30分以上1時間未満	19.0	19.1	18.9			
1時間以上2時間未満	39.8	39.5	40.1	35.0	36.1	33.8
2時間以上3時間未満	23.7	23.3	24.1	22.1	17.5	26.5
3時間以上4時間未満	6.1	6.0	6.2	8.5	7.4	9.6
4時間以上	3.9	3.0	4.8	7.2	3.1	11.1
把握していない	0.8	0.7	1.0	1.3	0.8	1.9
無回答	0.4	0.5	0.2	0.1	0.2	0.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※比較のため年中を除いてR3全体平均を算出

問３ 家庭での学習時間※塾や習い事は除く（単一回答）

子供が家庭で学習する時間は年齢が上がるにつれ高くなっている。



○H２８年結果との比較

※ただし前回の質問は「問６ お子さんは、平日１日あたりどれくらいの時間、家庭で学習（学習塾や家庭教師を含む）していますか。（１つだけ選択）」（年中は回答不要）

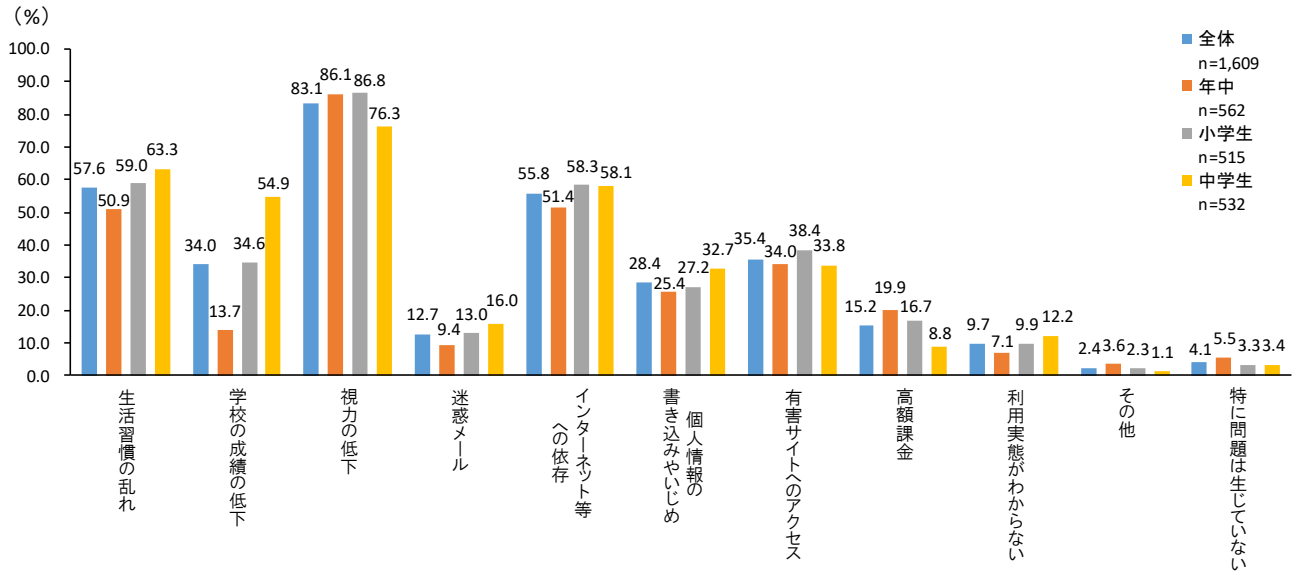
	H28			R3		
区分	全体	小学生	中学生	全体	小学生	中学生
全くしていない	2.2	1.2	3.3	3.5	1.0	6.0
30 分未満	12.0	11.6	12.4	15.1	17.7	12.6
30 分以上1時間未満	43.3	57.4	28.9	46.9	60.2	34.0
1時間以上2時間未満	31.2	24.7	37.9	27.2	18.8	35.3
2時間以上3時間未満	8.5	4.2	12.9	4.7	1.4	7.9
3時間以上4時間未満	1.2	0.5	1.9	1.1	0.8	1.3
4時間以上	0.4	0.0	0.7	0.1	0.0	0.2
把握していない	0.6	0.0	1.2	1.3	0.0	2.6
無回答	0.6	0.5	0.7	0.1	0.2	0.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※比較のため年中を除いてR3全体平均を算出

問４　デジタル機器の利用に関する心配や不安（複数回答）

デジタル機器の利用について、保護者としての心配や不安は「視力の低下」（83.1%）が最も高くなっている。次いで、「生活習慣の乱れ」（57.6%）、「インターネット等への依存」（55.8%）の順となっている。年代が上がるにつれ、「学校の成績の低下」が高くなっている。

問５と比較するとわかるが実際に心配していることが起こっているため、事前の対策が必要である。

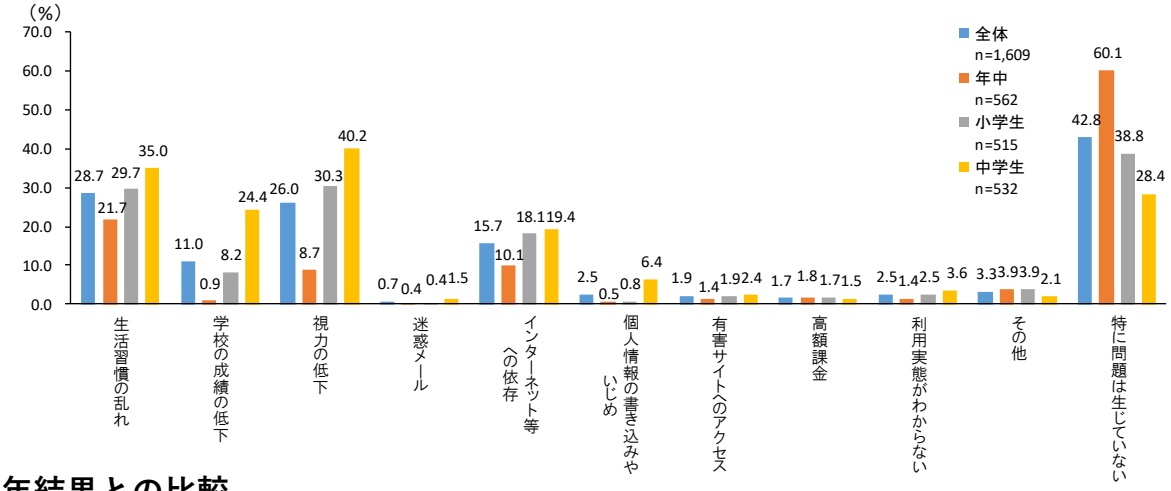


■その他回答

依存症、運動不足、体や脳の成長を阻害など

問５　デジタル機器の利用で困ったことやトラブル（複数回答）

デジタル機器の利用について、困ったことやトラブルは「特に問題は生じていない」（42.8%）が最も高くなっている。
年代が上がるにつれ、「特に問題は生じていない」は減少している。中学生では「視力の低下」（40.2%）が最も高く、次いで「生活習慣の乱れ」（35.0%）、「特に問題は生じていない」（28.4%）の順となっている 。
前回調査と比較して、ほとんどの項目で回答割合が上がっている。



○Ｈ２８年結果との比較

	H28				R3			
区分	全体	年中	小学生	中学生	全体	年中	小学生	中学生
生活習慣の乱れ	23.1	15.6	18.0	31.8	28.7	21.7	29.7	35.0
学校の成績の低下	7.5	0.9	2.4	15.8	11.0	0.9	8.2	24.4
視力の低下	22.6	5.8	22.5	32.6	26.0	8.7	30.3	40.2
迷惑メール	2.2	0.4	1.8	3.6	0.7	0.4	0.4	1.5
インターネット等への依存	15.2	16.0	9.8	19.4	15.7	10.1	18.1	19.4
個人情報の書き込みやいじめ	0.6	0.0	0.0	1.6	2.5	0.5	0.8	6.4
有害サイトへのアクセス	1.4	0.9	2.7	0.5	1.9	1.4	1.9	2.4
高額課金	0.9	0.0	0.9	1.6	1.7	1.8	1.7	1.5
利用実態がわからない	1.7	0.4	0.9	3.1	2.5	1.4	2.5	3.6
その他	2.3	3.6	2.4	1.6	3.3	3.9	3.9	2.1
特に問題は生じていない	50.2	63.1	57.4	36.4	42.8	60.1	38.8	28.4

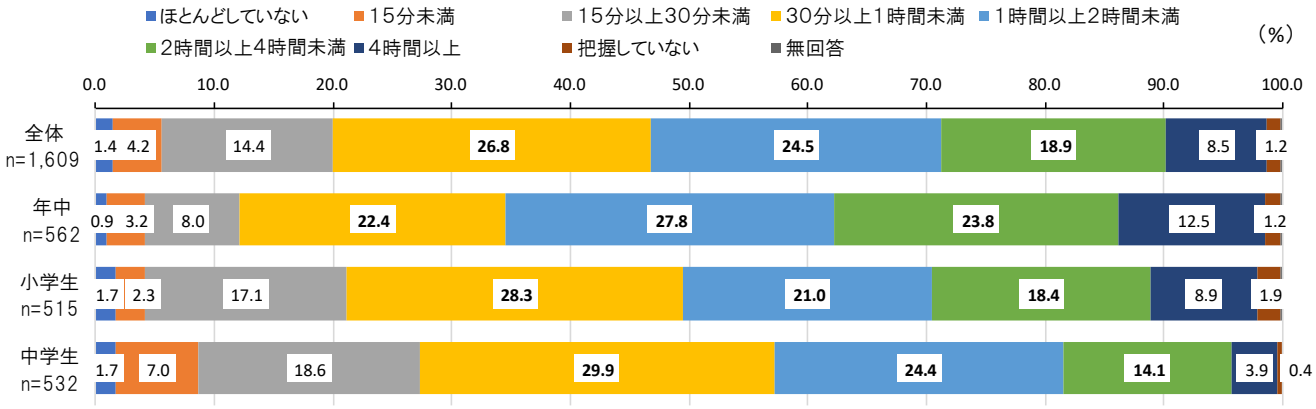
■その他回答

依存症、運動不足、体や脳の成長を阻害など

２　お子さんとの関わりについて

問６　お子さんと一緒に過ごす時間（単一回答）

子供と一緒に過ごす時間は年齢が上がるにつれて減少している。この傾向は前回調査から変わらないが、前回調査と比較して過ごす時間そのものが減少している。

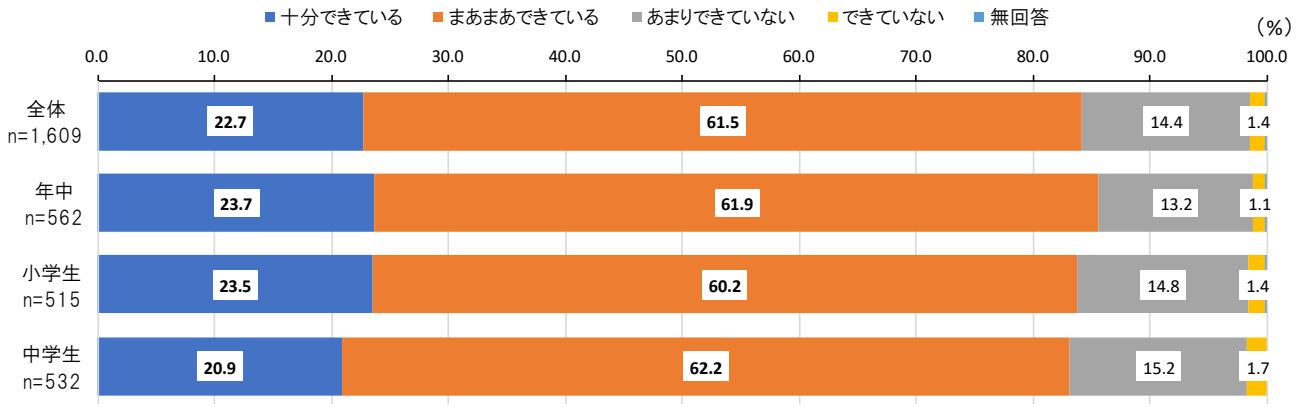


○Ｈ２８年結果との比較

	H28				R3			
区分	全体	年中	小学生	中学生	全体	年中	小学生	中学生
ほとんどしていない	0.6	0.2	0.5	1.2	1.4	0.9	1.7	1.7
15分未満	2.3	2.2	2.1	2.6	4.2	3.2	2.3	7.0
15分以上30分未満	8.8	4.9	9.8	12.2	14.4	8.0	17.1	18.6
30分以上1時間未満	18.8	13.1	18.8	25.1	26.8	22.4	28.3	29.9
1時間以上2時間未満	28.2	24.3	30.0	30.5	24.5	27.8	21.0	24.4
2時間以上4時間未満	18.1	21.0	17.2	15.8	18.9	23.8	18.4	14.1
4時間以上	19.8	31.9	18.4	8.4	8.5	12.5	8.9	3.9
把握していない	1.5	2.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.9	0.4
無回答	1.8	0.2	2.1	3.1	0.1	0.2	0.2	0.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0%	100.0	100.0	100.0

問７　お子さんとのコミュニケーション（単一回答）

お子さんとのコミュニケーションについては「十分できている」「まあまあできている」の合計はどの年代でも８０％台であった。
前回調査と比べて、若干減少しているものの大きな変動はない。

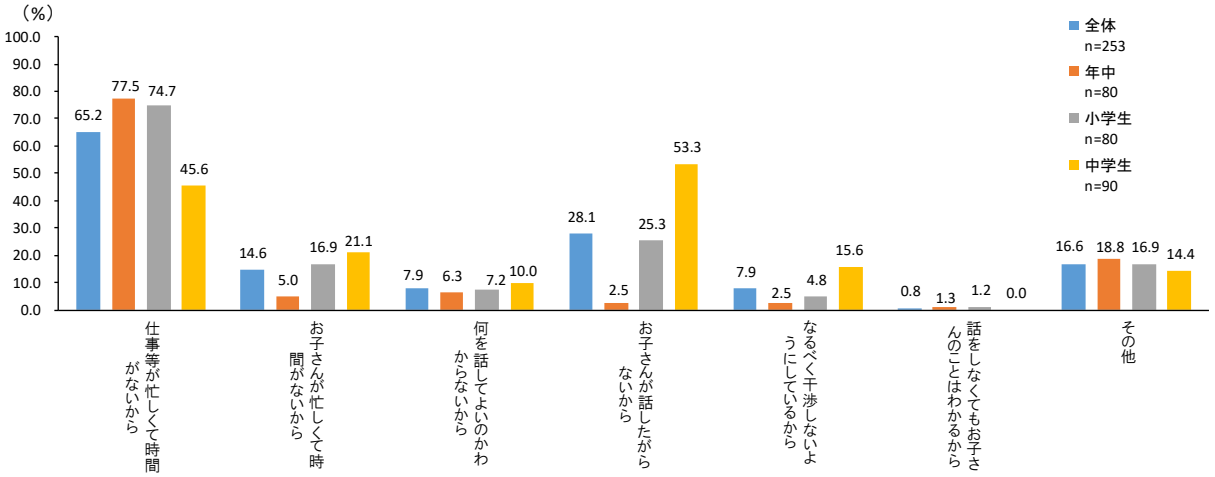


○Ｈ２８年結果との比較

	H28				R3			
区分	全体	年中	小学生	中学生	全体	年中	小学生	中学生
十分できている	24.6	26.8	24.9	22.0	22.7	23.7	23.5	20.9
まあまあできている	61.5	61.7	60.5	62.3	61.5	61.9	60.2	62.2
あまりできていない	12.2	10.4	12.6	13.8	14.4	13.2	14.8	15.2
できていない	0.6	0.9	0.7	0.2	1.4	1.1	1.4	1.7
無回答	1.1	0.2	1.4	1.7	0.1	0.2	0.2	0.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

問８　問７で「あまりできていない」「できていない」を選んだ理由（複数回答）

問７で「あまりできていない」「できていない」を選んだ理由は「仕事等が忙しくて時間がないから」が年中（77.5%）、小学生（74.7%）で最も高い。中学生では「お子さんが話したがらないから」が53.3%と最も高くなっている。
前回調査と比較して、傾向としては大きな変動は見られなかった。



○Ｈ２８年結果との比較

	H28				R3			
区分	全体	年中	小学生	中学生	全体	年中	小学生	中学生
仕事等が忙しくて時間がないから	64.7	78.4	71.9	45.8	65.2	77.5	74.7	45.6
お子さんが忙しくて時間がないから	22.2	0.0	22.8	40.7	14.6	5.0	16.9	21.1
何を話してよいのかわからないから	5.4	3.9	1.8	10.2	7.9	6.3	7.2	10.0
お子さんが話したがらないから	29.9	7.8	28.1	50.8	28.1	2.5	25.3	53.3
なるべく干渉しないようにしているから	5.4	2.0	3.5	10.2	7.9	2.5	4.8	15.6
話をしなくてもお子さんのことはわかるから	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	1.3	1.2	0.0
その他	13.8	21.6	15.8	5.1	16.6	18.8	16.9	14.4

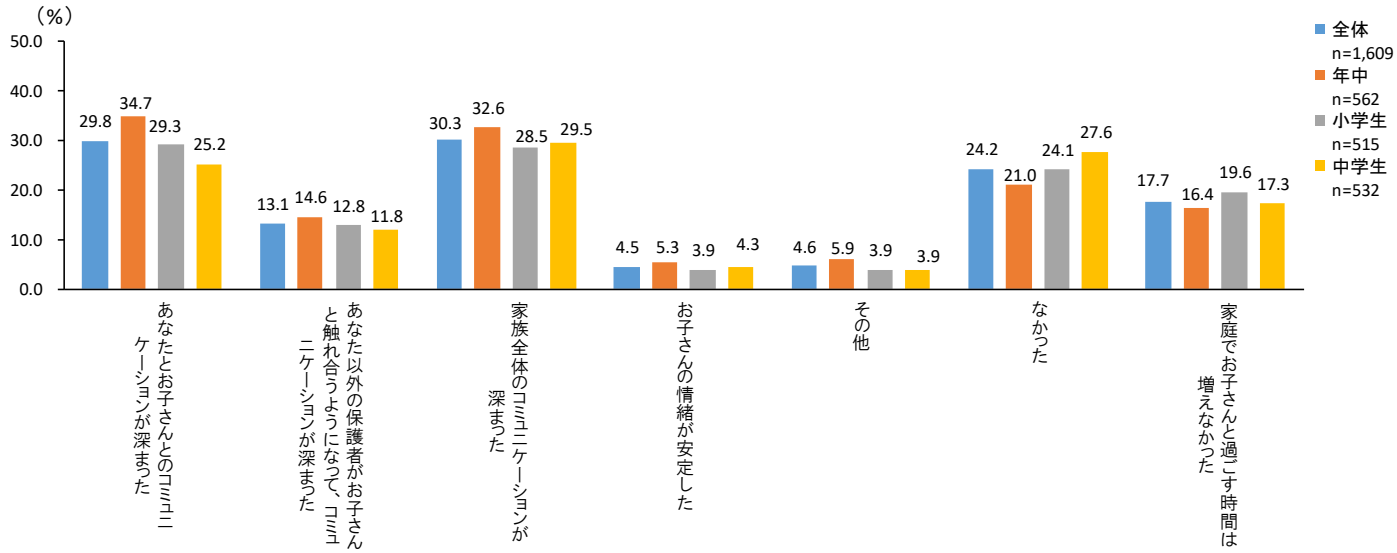
■その他回答

障害を持つ、下の子に手がかかる、習い事、家事が忙しいなど

問９　コロナによる家族で過ごす時間の変化（良かったこと）　（複数回答）

コロナによる家族で過ごす時間の変化（良かったこと）は「あなたとお子さんとのコミュニケーションが深まった」が年中（34.7%）、小学生(29.3%)で最も高い。中学生では「家族全体のコミュニケーションが深まった」が29.5%と最も高くなっている。

「良かったことはなかった」と「子供と過ごす時間は増えなかった」の回答は全体でそれぞれ24.2%と17.7%となり、半数以上は何らかの形で良い変化があったとの結果になった。



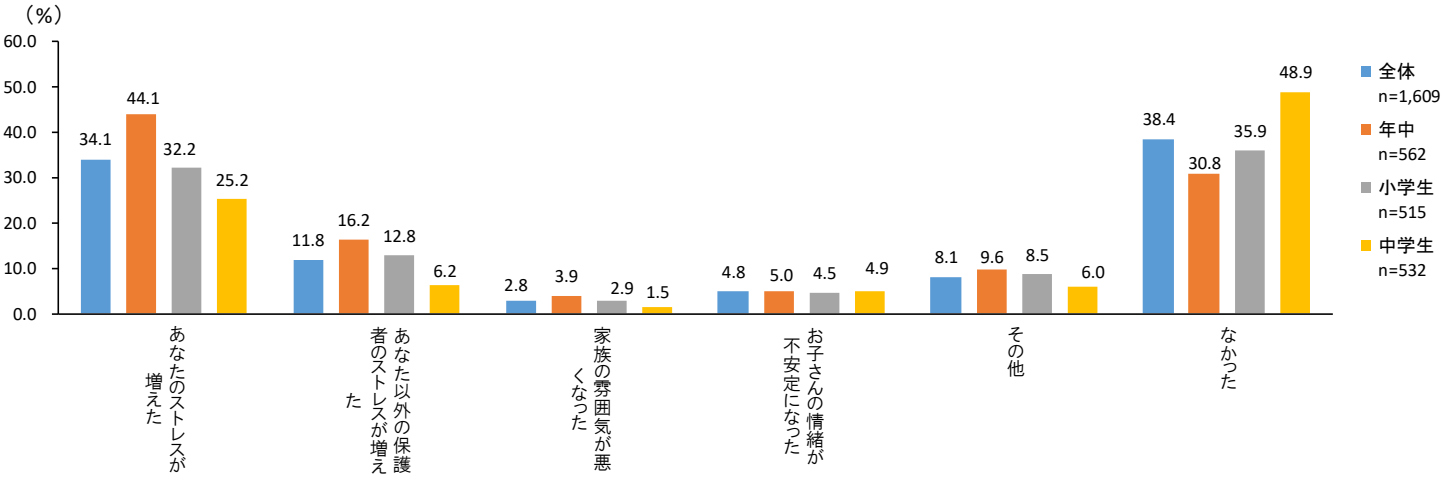
■その他回答

障害を持つ、下の子に手がかかる、習い事など

問１０　コロナによる家族で過ごす時間の変化（負担や悩み）　（複数回答）

コロナによる家族で過ごす時間の変化（負担や悩み）は「あなたのストレスが増えた」が年中（44.1%）で最も高い。小学生、中学生では「なかった」がそれぞれ35.9%、48.9%と最も高くなっている。

問９と比較すると良い変化があったと同時に負担や悩みも半数以上で発生していることがわかった。

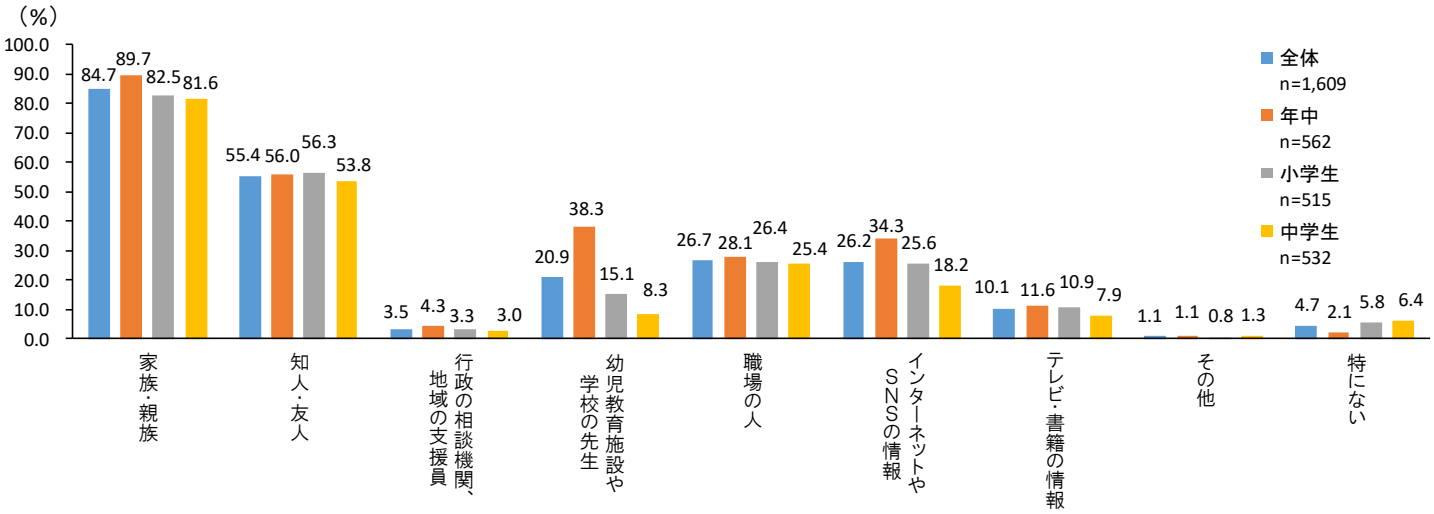


■その他回答

家事が増えた、外での体験が出来なくなったなど

問１１　お子さんとの接し方やしつけで困ったときの相談相手（複数回答）

お子さんとの接し方やしつけで困ったときの相談相手は全ての年代で「家族・親族」が最も高く、次いで「知人・友人」の順となっている。「幼児教育施設や学校の先生」が年中で38.3%と他の年代と比較して高くなっている。
相談相手が「特にない」と回答した割合はどの年代でも一桁台の割合となった。多くの人は誰かに相談したいことがあり、家族や知人など親しい間柄の人に相談していることがわかった。

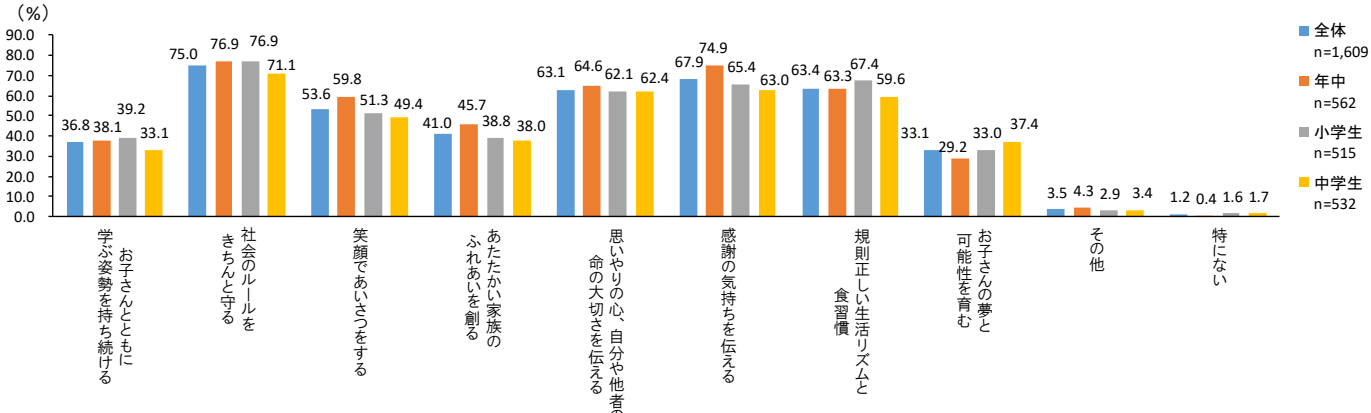


■その他回答

カウンセラー・病院の先生、本など

問１２　お子さんの教育で日頃から特に心がけていること（複数回答）

子供を教育する上で日頃から特に心がけていることは全ての年代で「社会のルールをきちんと守る」が最も高く、70%を超えている。また、「思いやりの心、自分や他者の命の大切さを伝える」「感謝の気持ちを伝える」「規則正しい生活リズムと食習慣」は全ての年代で半数を超えている。前回調査と比べて「社会のルールを守る」が大きく増加している。



○H２８年結果との比較

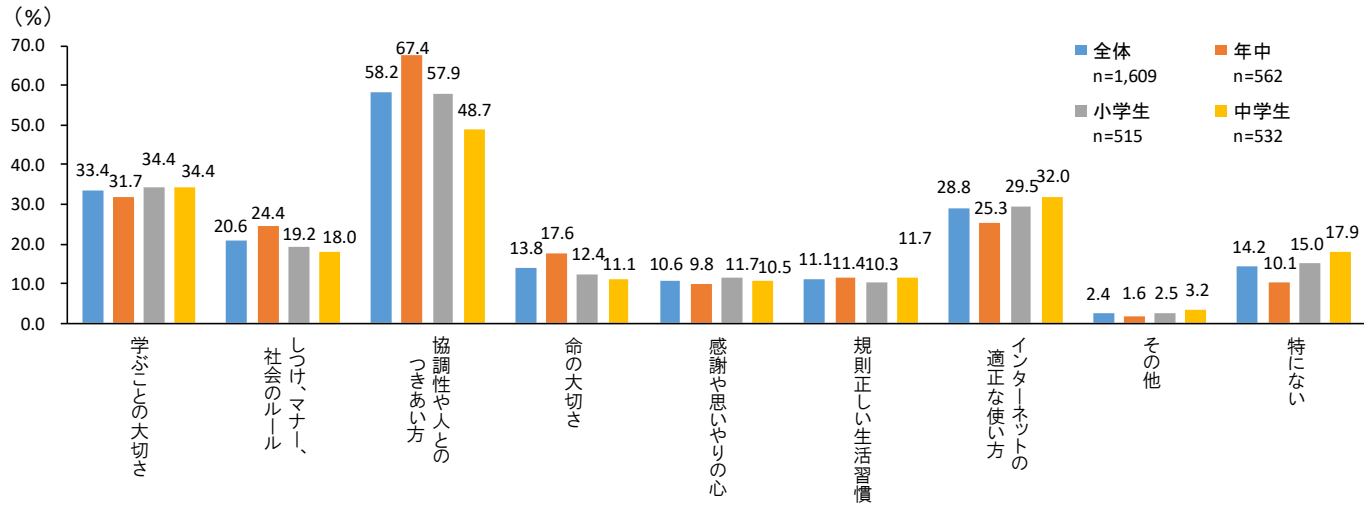
	H28				R3			
区分	全体	年中	小学生	中学生	全体	年中	小学生	中学生
お子さんとともに学ぶ姿勢を持ち続ける	12.3	4.2	16.0	17.2	36.8	38.1	39.2	33.1
社会のルールをきちんと守る	51.5	44.2	55.1	55.6	75.0	76.9	76.9	71.1
笑顔であいさつをする	28.7	32.1	24.7	29.4	53.6	59.8	51.3	49.4
あたたかい家族のふれあいを創る	21.4	21.2	19.8	23.2	41.0	45.7	38.8	38.0
自分や他者の命を大切にする	34.3	27.4	39.5	36.3	63.1	64.6	62.1	62.4
感謝の気持ちを伝える	62.3	64.4	61.6	60.9	67.9	74.9	65.4	63.0
規則正しい生活リズムと食習慣	57.6	58.8	62.3	51.6	63.4	63.3	67.4	59.6
お子さんの夢と可能性を育む	14.8	6.2	16.7	22.2	33.1	29.2	33.0	37.4
その他	1.1	1.3	0.9	1.0	3.5	4.3	2.9	3.4
特にない					1.2	0.4	1.6	1.7

■その他回答

ほめると叱るの両立、自己肯定感を育む、個性を尊重、あまり口出しせず見守るなど

問１３　家庭で教えるのが難しいこと（複数回答）

家庭で教えるのが難しいことは全ての年代で「協調性や人とのつきあい方」が最も高く、次いで「学ぶことの大切さ」「インターネットの適正な使い方」の順となっている。
割合が高い項目については家庭以外の外部機関で学ぶ必要性がある。



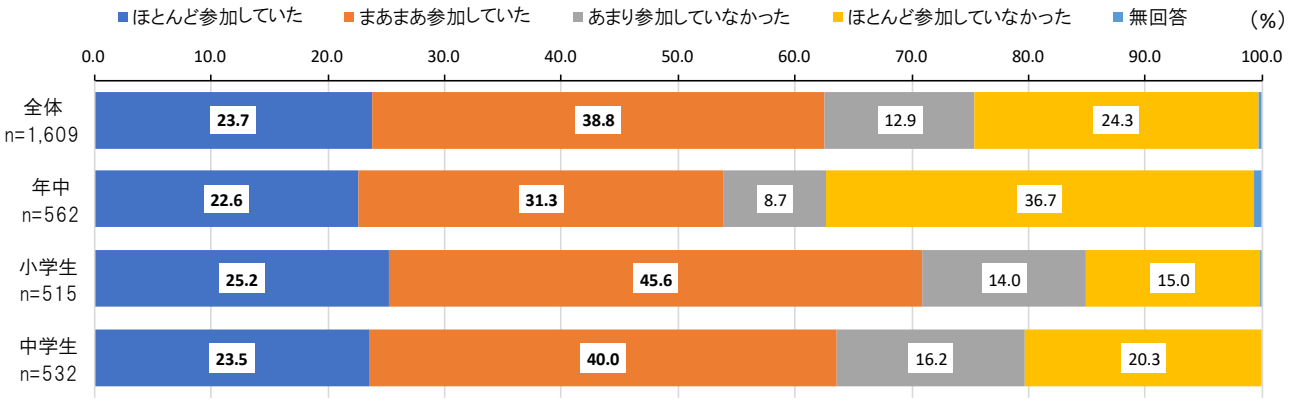
■その他回答

性教育、世の中の矛盾とのおりあいの付け方、社会生活のコミュニケーションなど

3　地域、学校等とのつながりについて

問１４　保護者会行事への参加（単一回答）

保護者会行事への参加については「ほとんど参加していた」「まあまあ参加していた」の合計が小学生で70.8%と最も高く、次いで中学生で63.5%、年中で53.9%の順となった。前回調査と比較して参加割合が減少している。

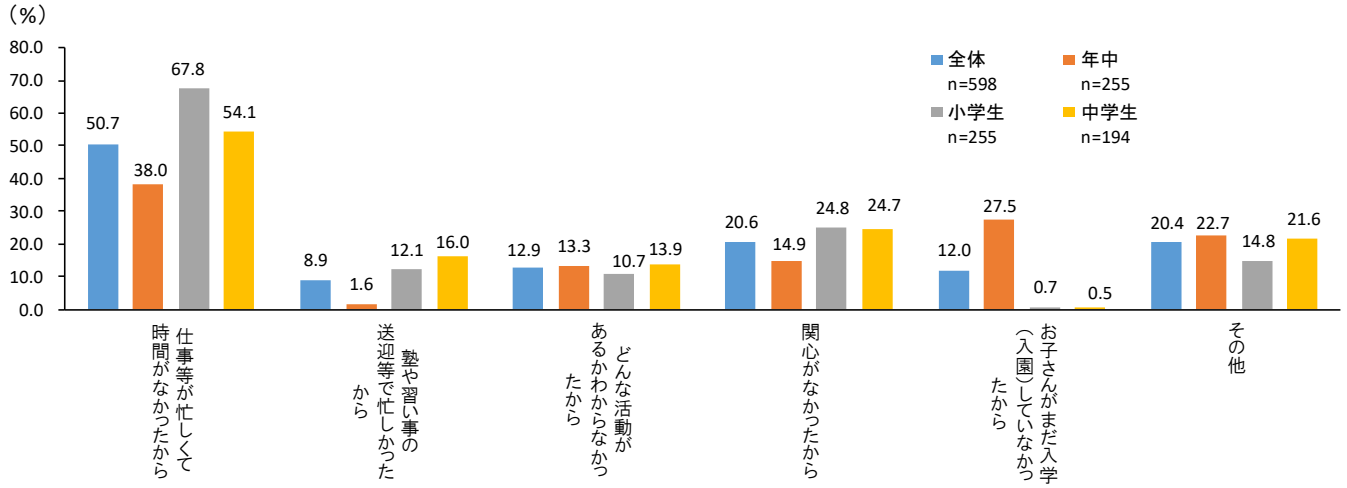


○H２８年結果との比較

	H28				R3			
区分	全体	年中	小学生	中学生	全体	年中	小学生	中学生
ほとんど参加していた	27.2	40.0	25.6	15.0	23.7	22.6	25.2	23.5
まあまあ参加していた	38.9	32.5	41.4	43.2	38.8	31.3	45.6	40.0
あまり参加していなかった	20.6	12.8	22.6	27.0	12.9	8.7	14.0	16.2
ほとんど参加していなかった	12.6	13.1	10.5	14.3	24.3	36.7	15.0	20.3
無回答	0.7	1.5	0.0	0.5	0.3	0.7	0.2	0.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

問１５　問１４で「あまり参加していなかった」「ほとんど参加していなかった」を選択した理由（複数回答）

問１４で「あまり参加していなかった」「ほとんど参加していなかった」を選択した理由はどの年代でも「仕事等が忙しくて時間がなかったから」が最も高くなっている。「その他」の回答にはコロナの影響が最も多く見られた。

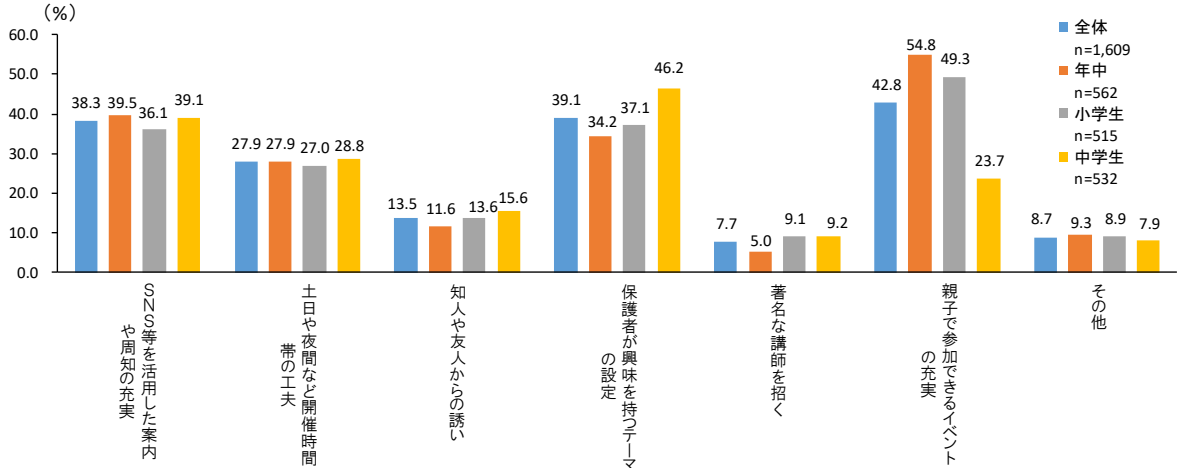


■その他回答

役員でなかった、コロナによる中止、機会がなかったなど

問１６　保護者会行事に参加を促すための取り組み（複数回答）

保護者会行事に参加を促すための取り組みは「親子で参加できるイベントの充実」が年中（54.8%）と小学生（49.3%）で最も高く、「保護者が興味を持つテーマの設定」が中学生（46.2%）で最も高くなっている。前回調査と比較して「親子で参加できるイベントの充実」と「ＳＮＳ等を活用した案内や周知の充実」を希望する割合が増加している。



○Ｈ２８年結果との比較

	H28				R3			
区分	全体	年中	小学生	中学生	全体	年中	小学生	中学生
SNS 等を活用した案内や周知の充実	10.5	11.5	9.1	10.7	38.3	39.5	36.1	39.1
土日や夜間など開催時間帯の工夫	24.7	25.0	21.2	27.9	27.9	27.9	27.0	28.8
知人や友人からの誘い	10.7	8.2	11.4	12.6	13.5	11.6	13.6	15.6
保護者が興味を持つテーマの設定	57.8	52.7	59.1	62.1	39.1	34.2	37.1	46.2
著名な講師から話を聞く	14.7	11.9	14.4	17.9	7.7	5.0	9.1	9.2
親子で参加できるイベントの充実	36.4	51.5	38.8	17.4	42.8	54.8	49.3	23.7
その他	5.8	4.6	7.2	5.7	8.7	9.3	8.9	7.9

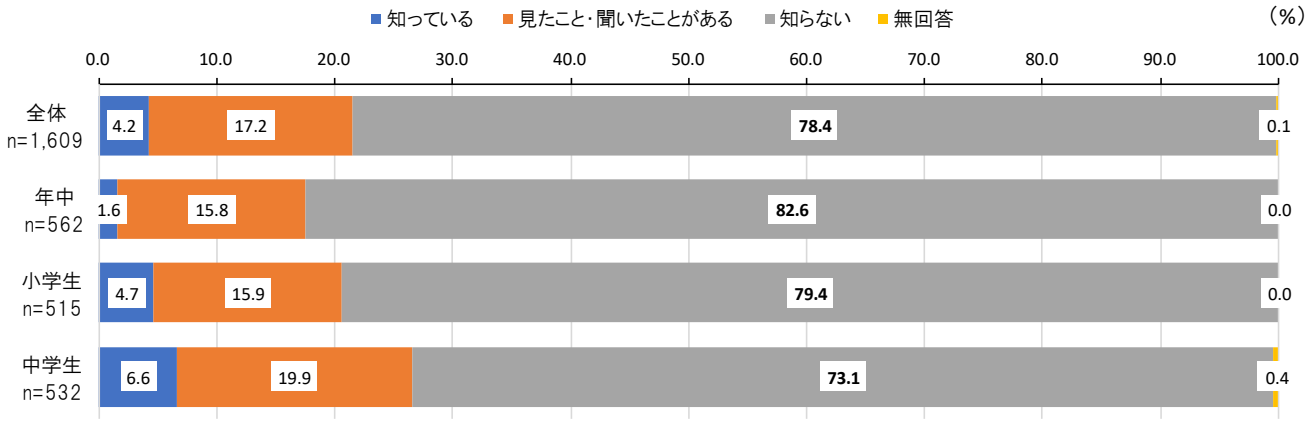
■その他回答

行事自体必要ない、負担がかからない、オンラインなど

4 金沢市教育委員会の家庭教育推進事業について

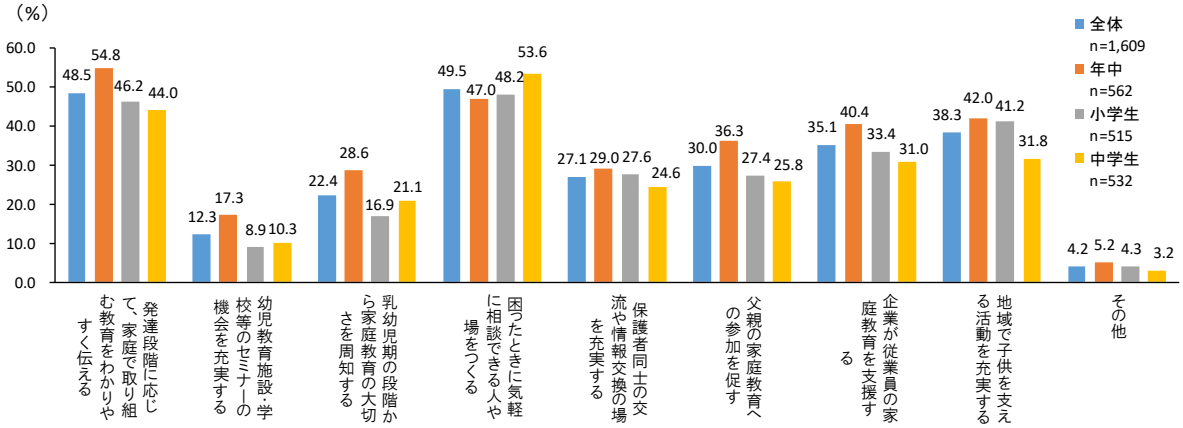
問１７　「家庭で子供を育むための８つのすすめ」（単一回答）

「家庭で子供を育むための８つのすすめ」を「知っている」または「見たこと・聞いたことがある」割合は年代が上がるにつれて高くなっている。認知度を高める施策が求められている。



問１８　家庭教育を推進するために必要な取り組み（複数回答）

家庭教育を推進するために必要な取り組みは「発達段階に応じて、家庭で取り組む教育をわかりやすく伝える」が年中（54.8%）で最も高く、「困ったときに気軽に相談できる人や場をつくる」が小学生（48.2%）、中学生（53.6%）で最も高くなっている。この設問の項目間で差がみられるものの、多くの取り組みが必要とされている。



■その他回答

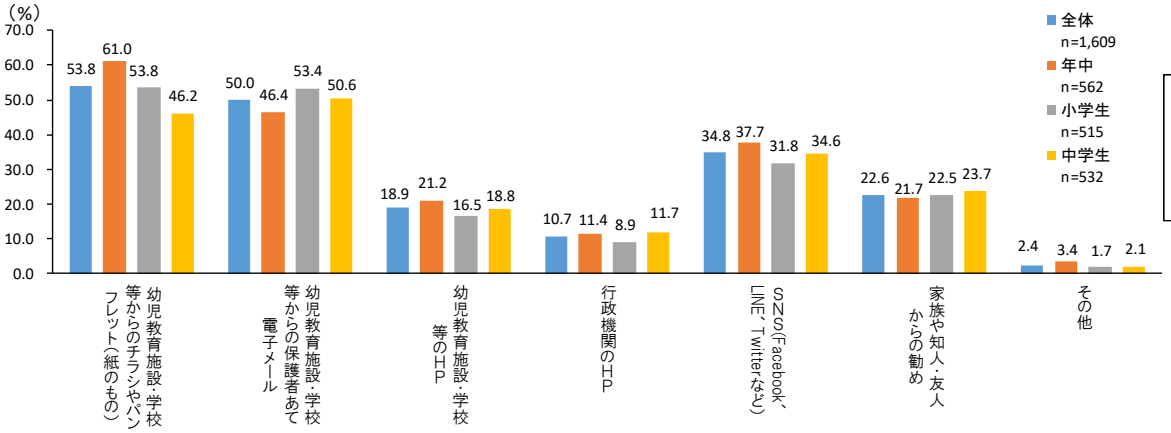
保護者が家庭で過ごす時間を増やす、金沢市の教育に関する取り組みの進化など

○H２８年結果との比較

区分	H28 全体	H28 年中	H28 小学生	H28 中学生	区分	R3 全体	R3 年中	R3 小学生	R3 中学生
家庭教育に関する情報提供の充実	59.2	64.4	55.3	57.5	発達段階に応じて、家庭で取り組む教育をわかりやすく伝える	48.5	54.8	46.2	44.0
家庭教育や家庭学習に関する手引き書の充実	25.2	23.9	26.5	25.3	乳幼児期の段階から家庭教育の大切さを周知する	22.4	28.6	16.9	21.1
ICT（情報通信技術）を活用した家庭教育支援	13.0	13.3	12.1	13.6					
研修会や講演会等の学習機会の充実	14.8	13.7	14.4	16.5	幼児教育施設・学校等のセミナーの機会を充実する	12.3	17.3	8.9	10.3
家庭教育に関する悩み相談窓口の充実	29.4	31.9	25.8	30.3	困ったときに気軽に相談できる人や場をつくる	49.5	47.0	48.2	53.6
家庭教育に関する指導者、支援者の養成	15.3	13.7	15.8	16.5					
保護者同士の交流や情報交換の場の充実	33.1	36.3	32.6	30.1	保護者同士の交流や情報交換の場を充実する	27.1	29.0	27.6	24.6
					父親の家庭教育への参加を促す	30.0	36.3	27.4	25.8
学校、地域、企業、NPO法人等と連携した家庭教育啓発活動	25.7	23.7	30.5	22.9	企業が従業員の家庭教育を支援する	35.1	40.4	33.4	31.0
					地域で子供を支える活動を充実する	38.3	42.0	41.2	31.8
その他	5.4	5.8	5.8	4.5	その他	4.2	5.2	4.3	3.2

問１９　効果的な情報発信手段（複数回答）

効果的な情報発信手段は「幼児教育施設・学校等からのチラシやパンフレット（紙のもの）」が年中（61.0%）、小学生（53.8%）で最も高く、「幼児教育施設・学校等からの保護者あて電子メール」が中学生（50.6%）で最も高くなっている。
デジタル機器の普及が進んでいるものの、発信手段としてはネットよりも紙媒体を望む回答が多い結果となった。
前回調査と比較してSNSの割合が増加している。



■その他回答

新聞、テレビ、ラジオ、手段よりも情報の質など

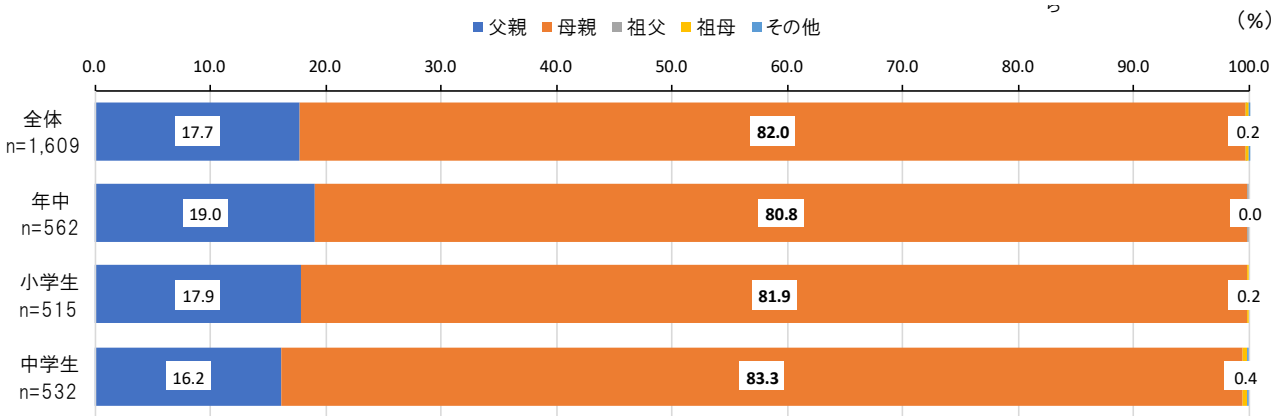
○H２８年結果との比較

	H28					R3			
区分	全体	年中	小学生	中学生	区分	全体	年中	小学生	中学生
					幼児教育施設・学校等からのチラシやパンフレット（紙のもの）	53.8	61.0	53.8	46.2
電子メール	33.8	32.3	33.5	35.8	幼児教育施設・学校等からの保護者あて電子メール	50.0	46.4	53.4	50.6
ホームページ	67.0	68.1	64.7	68.3	幼児教育施設・学校等のHP	18.9	21.2	16.5	18.8
					行政機関のHP	10.7	11.4	8.9	11.7
フェイスブック	19.4	25.7	18.8	13.4	SNS(Facebook、LINE、Twitterなど)	34.8	37.7	31.8	34.6
ツイッター	4.5	4.9	4.0	4.8					
					家族や知人・友人からの勧め	22.6	21.7	22.5	23.7
その他	15.7	17.9	14.9	13.8	その他	2.4	3.4	1.7	2.1

5 ご回答された方について

問２０　回答された方の続柄（お子さんからみて）　（単一回答）

どの年代でも「父親」が２０%弱で、「母親」が８０%台となっている。

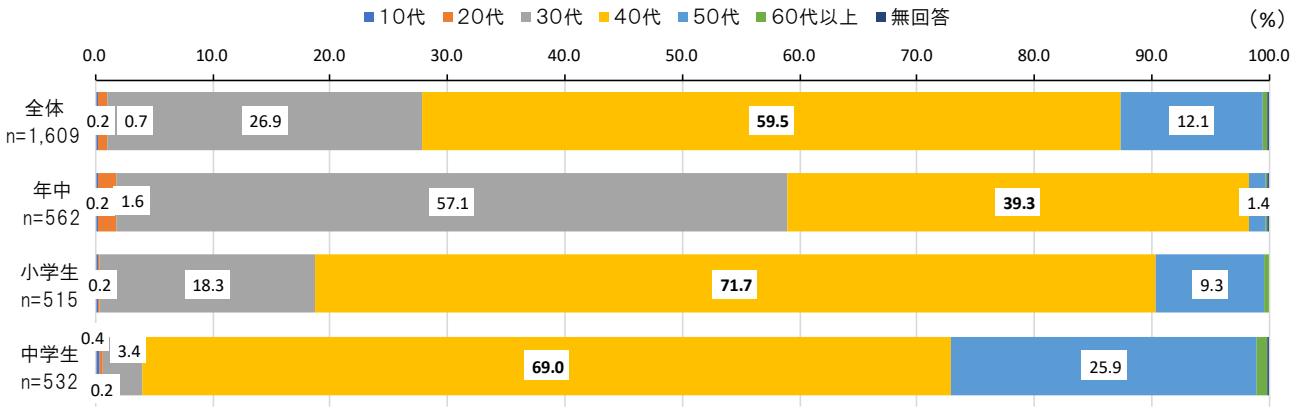


■その他回答

姉

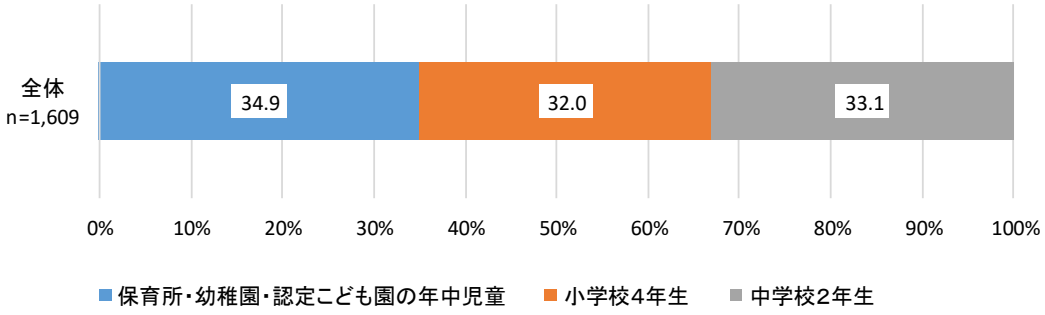
問２１　回答された方の年代（単一回答）

回答者の年代は年中で３０代（57.1%）が最も高く、「４０代」が小学生（71.7%）、中学生（69.0%）で最も高くなっている。



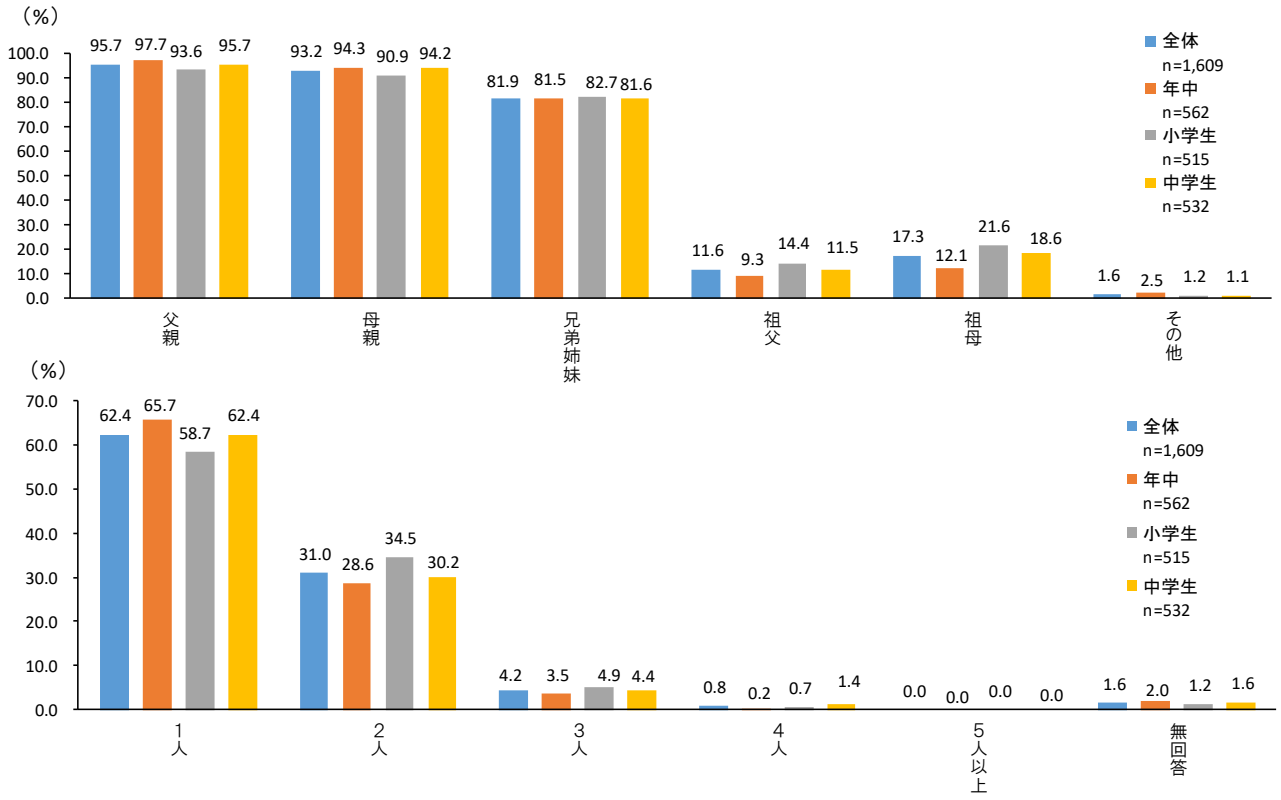
問２２　封筒宛名のお子さんの学年（単一回答）

回答者は保育所・幼稚園・認定こども園の年中、小学校４年生、中学校２年生がそれぞれ３０%台で均等な結果となっており、年代で大きな差は見られない。



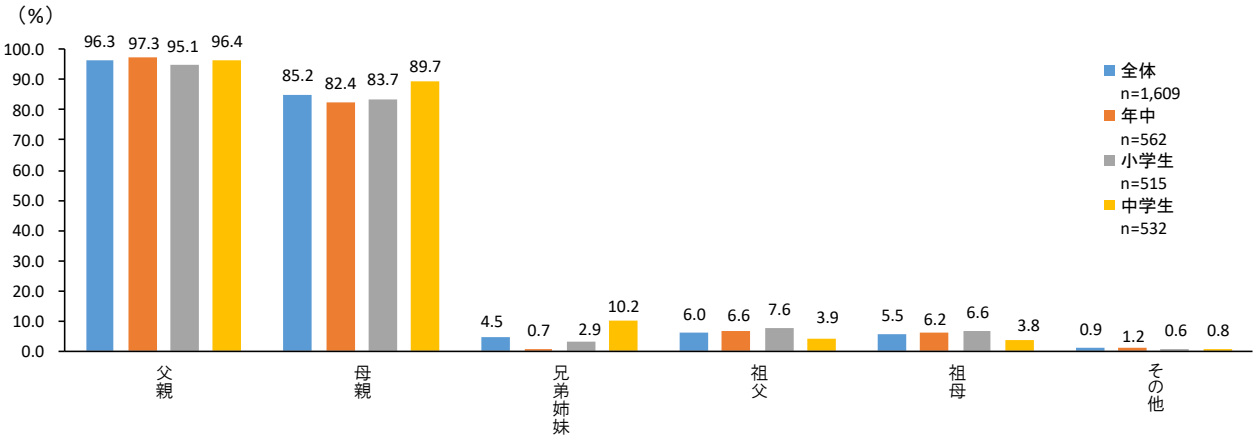
問２３　家族（同居）の構成員（複数回答）、兄弟姉妹の人数

どの年代でも９０％以上が「父親」または「母親」と同居しており、８０％以上の家庭で「兄弟姉妹」がいる。調査対象の子供を除く「兄弟姉妹」の人数はどの年代でも「１人」が最も高くなっている。



問２４　家族のうち就業している方（複数回答）

家族のうち就業しているのはどの年代でも「父親」で90%以上、「母親」で80%以上となった。



■その他回答

おじ、おばなど

調査票

保護者のみなさまへ

「家庭教育に関する保護者意識調査」へのご協力のお願い

日頃から、本市教育行政に対し、深いご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

この調査は、金沢市内にお住まいの保護者の方に、日頃のお子さんの状況や、お子さんとの関わり、家庭教育に関するお考えなどをお伺いし、今後の家庭教育の振興策に役立てることを目的としております。

ご負担をおかけいたしますが、趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますよう、お願いいたします。

令和3年7月
金沢市教育委員会生涯学習課

1.調査の対象

金沢市内にお住まいの「保育所・幼稚園・認定こども園の年中（令和3年4月1日現在で4歳の児童）」「小学校4年生」「中学校2年生」のお子さんの保護者の方3000名（無作為による抽出）

2.ご回答方法

下記のいずれかの方法を選択ください。（回答に要する時間は10分程度です）

①インターネットによる回答

右記の二次元バーコードを読み取り、又はURLを入力し、「金沢市電子申請サービス」からご回答ください。

URL:

https://s-kantan.jp/city-kanazawa-ishikawa-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=998

※インターネットでご回答いただいた方は、紙の調査票の返送は不要です。

②郵送による回答

調査票をご記入後、同封の返信用封筒（切手不要）に封入し、郵便ポストに投函してください。

3.ご回答期限　　令和3年8月20日（金）

4.データの取り扱い等

○調査は、無記名で実施します。
○ご回答いただいた内容は、統計的に処理しますので、個別のご意見などがそのまま公表されることは一切ありません。
○日頃の家庭の様子や保護者としての率直なお気持ちをお聞かせください。
○調査結果は、まとまり次第「かなざわ家庭教育サイト」に掲載する予定です。

本調査について、ご不明な点等がございましたら、下記までご連絡ください。

【お問い合わせ先】　金沢市教育委員会生涯学習課　家庭教育振興室
電話:076-220-2441　　FAX:076-220-2488
E-mail:syougaku@city.kanazawa.lg.jp

家庭教育に関する保護者意識調査

アンケートご記入にあたってのお願い

○このアンケートで「お子さん」とは、封筒宛名のお子さんのことをさします。
以下の問いでは、封筒宛名のお子さんについてのみ、お答えください。
○「家庭教育」とは、「保護者が家庭で子に行う教育」のことをさします。
答えにくい質問があるかもしれませんが、あまり考えこまず、お答えできる範囲でご回答ください。

１　お子さんの状況について

問１　お子さんが主に利用するスマートフォン、タブレット、ＰＣなどのデジタル機器（以下「デジタル機器」という）はだれのものですか。
あてはまる番号に○をつけてください。（１つだけ）

１．お子さん専用
２．親と共用
３．兄弟（姉妹）と共用
４．その他（　　）
５．持たせていない

問２　お子さんは平日１日あたりどれくらいの時間、デジタル機器を使用（学習を除く）していますか。※動画の視聴やゲームをしている時間を含みます。
あてはまる番号に○をつけてください。（１つだけ）

１．使用していない
２．１時間未満
３．１時間以上２時間未満
４．２時間以上３時間未満
５．３時間以上４時間未満
６．４時間以上
７．把握していない

問３　お子さんは、平日１日あたりどれくらいの時間、家庭で学習していますか。
※塾や習い事などでの学習時間は除きます。
あてはまる番号に○をつけてください。（１つだけ）

１．全くしていない
２．30 分未満
３．30 分以上１時間未満
４．１時間以上２時間未満
５．２時間以上３時間未満
６．３時間以上４時間未満
７．４時間以上
８．把握していない

問４　デジタル機器の利用について、保護者としての心配や不安は何ですか。
あてはまる番号に○をつけてください。（あてはまるものすべて）

１．生活習慣の乱れ
２．学校の成績の低下
３．視力の低下
４．迷惑メール
５．インターネット等への依存
６．個人情報の書き込みやいじめ
７．有害サイトへのアクセス
８．高額課金
９．利用実態がわからない
10．その他（　　）
11．特に問題は生じていない

問５　お子さんのデジタル機器の利用で、困ったことやトラブルになった（なりそうになった）ことはありますか。それは次のどれですか。
あてはまる番号に○をつけてください。（あてはまるものすべて）

１．生活習慣の乱れ
２．学校の成績の低下
３．視力の低下
４．迷惑メール
５．インターネット等への依存
６．個人情報の書き込みやいじめ
７．有害サイトへのアクセス
８．高額課金
９．利用実態がわからない
10．その他（　　）
11．特に問題は生じていない

２　お子さんとの関わりについて

問６　お子さんとは、平日１日あたりどれくらいの時間、一緒に話したり、遊んだり、勉強などしていますか。
あてはまる番号に○をつけてください。（１つだけ）

１．ほとんどしていない
２．15 分未満
３．15 分以上 30 分未満
４．30 分以上１時間未満
５．１時間以上２時間未満
６．２時間以上４時間未満
７．４時間以上
８．把握していない

問７　お子さんとの遊びや会話を通したコミュニケーションは、できていると思いますか。
あてはまる番号に○をつけてください。（１つだけ）

１．十分できている　　(→問９へ)
２．まあまあできている　(→問９へ)
３．あまりできていない　(→問８へ)
４．できていない　　(→問８へ)

問８　※問７で３．４を選んだ方にお聞きします。
お子さんとの遊びや会話を通したコミュニケーションが「あまりできていない」「できていない」と思ったのは、なぜですか。
あてはまる番号に○をつけてください。（あてはまるものすべて）

１．仕事等が忙しくて時間がないから
２．お子さんが忙しくて時間がないから
３．何を話してよいのかわからないから
４．お子さんが話したがらないから
５．なるべく干渉しないようにしているから
６．話をしなくてもお子さんのことはわかるから
７．その他（　　）

問９　新型コロナウイルス感染症の影響（外出制限、保護者の働き方の変化等）で、お子さんと家庭で過ごす時間が増えたことで、よかったことはありましたか。
あてはまる番号に○をつけてください。（あてはまるものすべて）

１．あなたとお子さんとのコミュニケーションが深まった
２．あなた以外の保護者がお子さんと触れ合うようになって、コミュニケーションが深まった
３．家族全体のコミュニケーションが深まった
４．お子さんの情緒が安定した
５．その他（　　）
６．なかった
７．家庭でお子さんと過ごす時間は増えなかった（→問 11 へ）

問 10　逆に、お子さんと家庭で過ごす時間が増えたことで、負担に感じたことや悩んだことはありましたか。
あてはまる番号に○をつけてください。（あてはまるものすべて）

１．あなたのストレスが増えた
２．あなた以外の保護者のストレスが増えた
３．家族の雰囲気が悪くなった
４．お子さんの情緒が不安定になった
５．その他（　　）
６．なかった

問 11　お子さんとの接し方やしつけで困ったときの相談相手はだれですか、または情報入手方法は何ですか。
あてはまる番号に○をつけてください。（あてはまるものすべて）

１．家族・親族
２．知人・友人
３．行政の相談機関、地域の支援員
４．幼児教育施設や学校の先生
５．職場の人
６．インターネットやＳＮＳの情報
７．テレビ・書籍の情報
８．その他（　　）
９．特にない

問 12　お子さんを教育するうえで、ご自身が日頃から特に心がけていることは何ですか。
あてはまる番号に○をつけてください。（あてはまるものすべて）

１．お子さんとともに学ぶ姿勢を持ち続ける
２．社会のルールをきちんと守る
３．笑顔であいさつをする
４．あたたかい家族のふれあいを創る
５．思いやりの心、自分や他者の命の大切さを伝える
６．感謝の気持ちを伝える
７．規則正しい生活リズムと食習慣
８．お子さんの夢と可能性を育む
９．その他（　　）
10．特にない

問 13　学習以外で、家庭で教えることが難しいと思っていることは次のうちどれですか。
あてはまる番号に○をつけてください。（あてはまるものすべて）

１．規則正しい生活習慣
２．命の大切さ
３．感謝や思いやりの心
４．学ぶことの大切さ
５．しつけ、マナー、社会のルール
６．協調性や人とのつきあい方
７．インターネットの適正な使い方
８．その他（　　）
９．特にない

３　地域、学校等とのつながりについて

問 14　新型コロナウイルス感染症拡大以前の時期（令和２年２月以前）において、あなたは保護者会やＰＴＡ・育友会活動の行事等に参加していましたか。
あてはまる番号に○をつけてください。（１つだけ）

１．ほとんど参加していた　　（→問 16 へ）
２．まあまあ参加していた　　（→問 16 へ）
３．あまり参加していなかった　（→問 15 へ）
４．ほとんど参加していなかった（→問 15 へ）

問 15　※問 14 で３．４を選んだ方にお聞きします。
保護者会やＰＴＡ・育友会活動の行事等に参加していなかった理由は何ですか。
あてはまる番号に○をつけてください。（あてはまるものすべて）

１．仕事等が忙しくて時間がなかったから
２．塾や習い事の送迎等で忙しかったから
３．どんな活動があるかわからなかったから
４．関心がなかったから
５．お子さんがまだ入学（入園）していなかったから
６．その他（　　）

問 16　保護者会やＰＴＡ・育友会活動の行事等に参加を促すため、どのような取り組みがあればよいと思いますか。
あてはまる番号に○をつけてください。（あてはまるものすべて）

１．ＳＮＳ等を活用した案内や周知の充実
２．土日や夜間など開催時間帯の工夫
３．知人や友人からの誘い
４．保護者が興味を持つテーマの設定
５．著名な講師を招く
６．親子で参加できるイベントの充実
７．その他（　　）

４　金沢市教育委員会の家庭教育推進事業について

問 17　家庭は教育の出発点であり、お子さんの心のよりどころです。
金沢市教育委員会では、「家庭で子どもを育むための８つのすすめ」（次ページ）を呼びかけていますが、あなたは知っていますか。
あてはまる番号に○をつけてください。（１つだけ）

１．知っている
２．見たこと・聞いたことがある
３．知らない

問 17 の続き

＜家庭で子どもを育むための「８つのすすめ」＞

家庭教育に関する情報
かなざわ家庭教育サイト
をご覧ください！

問 18　家庭教育を推進するため、<u>どのような取り組みが特に必要だと考えますか。</u>
あてはまる番号に○をつけてください。（あてはまるものすべて）

1．発達段階に応じて、家庭で取り組む教育をわかりやすく伝える
2．幼児教育施設・学校等のセミナーの機会を充実する
3．乳幼児期の段階から家庭教育の大切さを周知する
4．困ったときに気軽に相談できる人や場をつくる
5．保護者同士の交流や情報交換の場を充実する
6．父親の家庭教育への参加を促す
7．企業が従業員の家庭教育を支援する
8．地域で子供を支える活動を充実する
9．その他（　　）

問 19　家庭教育に関する情報は、<u>どの発信手段が効果的だと思いますか。</u>
あてはまる番号に○をつけてください。（あてはまるものすべて）

1．幼児教育施設・学校等からのチラシやパンフレット（紙のもの）
2．幼児教育施設・学校等からの保護者あて電子メール
3．幼児教育施設・学校等のＨＰ
4．行政機関のＨＰ
5．ＳＮＳ(Facebook、LINE、Twitter など)
6．家族や知人・友人からの勧め
7．その他（　　）

５　ご回答された方について

問 20　この調査票を回答された方はどなたですか。（封筒宛名のお子さんからみた続柄）
あてはまる番号に○をつけてください。

１．父親　　２．母親　　３．祖父　　４．祖母
５．その他（　　）

問 21　この調査票を回答された方の年代をお答えください。
あてはまる番号に○をつけてください。

１．10 代　　２．20 代　　３．30 代　　４．40 代　　５．50 代　６．60 代以上

問 22　調査対象のお子さん（封筒宛名のお子さん）の学年をお答えください。

１．保育所・幼稚園・認定こども園の年中児童
２．小学校４年生
３．中学校２年生

問 23　お子さんの家族(同居)の構成員について、あてはまるものをすべて選んでください。

１．父親
２．母親
３．兄弟姉妹（　　）人　※調査対象のお子さんは含みません
４．祖父
５．祖母
６．その他（　　）

問 24　お子さんの家族のうち就業（パートを含む）している方をすべて選んでください。

１．父親　　２．母親　　３．兄弟姉妹　　４．祖父　　５．祖母
６．その他（　　）

６　家庭教育に対するご意見について

問 25　不安や悩み等、家庭教育に対するご意見をご自由にお書きください。

調査へのご協力、誠にありがとうございました。